

## 5 過去33年間(1980~2012)に報道機関紙(誌)が 取り上げた歯科医療事故について

加來 洋子, 山口 秀紀, 卯田 昭夫, 石橋 肇, 渋谷 敏

日本大学松戸歯学部歯科麻酔学講座

1980~2012年の33年間に全国の報道機関紙(誌), 893紙(誌)に取り上げられた歯科医療事故に関する記事について調査した。1件の事例が複数の報道機関紙(誌)に取り上げられている場合, また, 時を経て報道されている場合もあり, 全報道件数は延べ報道件数の累計として集計した。

33年間の全報道例数は161例, 全報道件数は448件であった。報道件数は, 1980年から1995年の16年間は10件以下で推移していた。1996年は12件であったが, 以後, 1999年まで再び10件以下で推移した。2000年以降増加し, 2002年は50件に急増, 2003年46件, 2004年38件, 2005年は最多の57件であった。以後減少し, 2009年は4件であったが, 2010年には41件に増加していた。2011年は20件, 2012年は10件であった。

全報道: 448件/161例の内訳は, 民事訴訟関連: 222件/105例が最も多く, 次いで, 事故発生関連: 128件/28例, 刑事訴訟関連: 90件/24例の順であった。また, 民事訴訟関連: 222件/105例の内訳は, 賠償命令: 83件/36例が最多で, 次いで, 提訴・控訴: 65件/35例, 和解: 27件/11例, 口頭弁論: 26件/13例, 棄却: 21件/10例であった。

33年間に取り上げられた全報道事故例数は98例であった。事故発生年別の推移(98例中5例は事故発生年不明)では, 2001年の11例が最も多く, 次いで1986年の9例, 1998年および2000年の7例の順であった。事故発生病院種別による内訳では, 歯科医院: 57例が最も多く, 次いで, 大学病院: 23例, 公的病院: 15例, 国立病院: 1例, その他: 2例であった。また, 診療行為(原因)別による内訳では, 麻酔: 17例(うち笑気吸入鎮静法: 1例, 全身麻酔: 1例)が最も多く, 次いで, 抜歯: 15例, 一般診療: 12例, 口腔外科手術: 12例, インプラント: 9例, 投薬ミス: 7例, 器具(破片)残存: 6例, 誤認抜歯: 6例, 矯正治療: 4例, 異物置き忘れ: 3例, 器具誤飲: 3例, 器具操作ミス: 3例, 器具迷入: 1例であった。患者転帰別による内訳では, 後遺症: 49例が最も多く, 次いで, 死亡: 24例, 治療内容不満: 14例, その他: 11例であった。後遺症: 49例の診療行為(原因)別による内訳では, 抜歯: 13例が最も多く, 次いで, 一般診療: 7例, インプラント手術: 7例, 口腔外科手術: 7例の順であった。また, 死亡では, 麻酔: 13例が, 治療内容不満では, 誤認抜歯: 6例が最多であった。

2012年9月26日に日本医療機能評価機構が発表した「医療事故情報収集等事業第30回報告書」では, これまで個別のテーマや「共有すべき医療事故情報」, 「医療安全情報」として取り上げた再発・類似事例の発生状況の例として「抜歯部位の取り違い」を挙げている。本調査では「誤認抜歯」が6例あった。また, 確認不足により発生したとみられる「異物置き忘れ」が3例あった。いずれも1999年以降の報告である。大学病院での「患者取り違い事故」と都立病院での「点滴薬取り違い事故」発生が, 医療安全についての社会的関心を高める契機となり, 医療安全元年とも評されている1999年以降に, このような「うっかりミス」の範疇に含まれる歯科医療事故が発生していることは留意する点である。